

# 伊賀市多文化共生推進プラン事業計画

第1期(2023-2026)

【2024(令和6)年度】

事業進捗状況調書

## ■施策の展開■

<p>1. だれもが安全に安心して暮らせる地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1-A-(1) 災害時・緊急時における協働体制の確立</li> <li>1-A-(2) 外国人住民の高齢化への対応</li> <li>1-A-(3) 地域における生活支援の充実</li> <li>1-A-(4) 生活困窮等対策の充実</li> <li>1-B-(1) さまざまな相談に対する支援の充実</li> <li>1-C-(1) 就労と居住に関する支援の充実</li> <li>1-C-(2) 外国人差別への対応</li> </ul>	<p>2. 教育・子育てしやすい地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2-A-(1) 子育て情報の充実</li> <li>2-A-(2) 子ども・若者の居場所づくり</li> <li>2-B-(1) 児童生徒一人ひとりに合った教育の推進</li> <li>2-B-(2) 子育て支援に関する相談の充実</li> <li>2-C-(1) 日本語指導、進学指導の充実</li> <li>2-C-(2) 就学に関する情報提供の充実</li> </ul>
<p>3. 国籍を越えた交流による地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3-A-(1) 「やさしい日本語」の普及</li> <li>3-B-(1) 文化・スポーツ交流の促進</li> <li>3-C-(1) 学習・文化活動に参加できる環境づくり</li> <li>3-C-(2) 外国人住民との連携・協働</li> </ul>	<p>4. 外国人住民も活躍する地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4-A-(1) 日本語学習機会の拡充</li> <li>4-A-(2) 双方向による情報受発信</li> <li>4-A-(3) 外国人への偏見・差別の解消</li> <li>4-B-(1) 住民の声を聴くための機会づくり</li> <li>4-C-(1) まちづくり、地域づくりへの参画</li> <li>4-C-(2) 外国人住民の人材育成と支援者の人材育成</li> <li>4-C-(3) 外国人起業家などへの支援</li> </ul>

「施策の取組の方向」は、

- 「A」早急に取り組むべきもの
- 「B」すぐに取り組めるもの
- 「C」じっくり取り組むものと分類し表記しています。

伊賀市多文化共生推進プラン（第1期）進捗管理シート

展開方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2024(R6)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2024(R6)年度 各主体の取組実績	② 2024(R6)年度 課題・改善案	④ 2024(R6)年度 取組に対する評価	
						タイプ※	指標名	見込値 (2024)	③ 実績 値 (2024)				
1	だれもが安全に安心して暮らせる地域づくり 1-A-(1) 災害時・緊急時における協働体制の確立	① 平時からの情報の充実	◆多言語と「やさしい日本語」によるさまざまなツールを通じた情報提供	防災危機対策局	国際交流フェスタにおける防災啓発及び伊賀市防災・情報アプリ等での情報発信（多言語・やさしい日本語）	b：取組実績把握	—	—	—	10月6日開催の国際交流フェスタで防災危機対策局からブース出展し、伊賀市防災・情報アプリHAZARDONの（多言語）登録の啓発及び防災に関するアンケートを実施しました。	イベントでの啓発だけでなく、通常時から多文化共生課等と連携して、伊賀市防災・情報アプリHAZARDONの多言語登録や防災(自助・共助・防災情報)に関する周知・啓発を行う必要があります。	A：計画以上に取組組めた	
				秘書広報課	引き続き、多言語及びやさしい日本語での発信ができるよう運用します。	b：取組実績把握	市の発信事業	—	—	公式ホームページは多言語翻訳とやさしい日本語での閲覧が出来るようになっていきます。広報いごも毎号カタログポケットアプリによる外国語版の提供を行っています。	引き続き、多言語及びやさしい日本語での発信ができるよう運用していきます。 なお、ベトナム人の人口が急増していることから、R7年度からホームページの翻訳に「ベトナム語」を追加できるようR7年度当初予算要求をしています。	B：概ね計画通り取組組めた	
				地域連携部 各支所	(上野支所) 今後、英語以外の言語での表示を検討します。行政機関への届出等の相談で来庁されることがあり、日本語が通じない場合は4階の多文化共生センターと連携し案内を行います。 (阿山支所) 施設内の案内表示を多言語に対応した解りやすいものにします。	b：取組実績把握	—	—	—	(上野支所) 多くの人が認知しやすいローマ字での案内表記を行った。行政機関への届出等の相談で来庁された人で、日本語が通じない場合は4階の多文化共生センターと連携し案内を行った。 (阿山支所) 施設内の多言語表示について一部実施しました。 ・ローマ字表記+五力国語表示(ポルトガル語、スペイン語、中国語、ベトナム語、英語) スペース上の都合もあり、多くの表示を多言語化することは難しい部分もありますが、需要や必要性もみながら可能な範囲で表示箇所を増やしていこうと思います。	(上野支所) 旅行で来られた方からの問い合わせや行政機関への届出等の相談で来庁される方が増加傾向にある中で、スムーズな対応ができるよう「やさしい日本語」の活用も含め職員一人一人の対応力の向上に努める必要があります。 (阿山支所) 海外からの転入や転出が増え、外国人のマイナンバー関係の手続きも増えています。これらの課題についてははいずれも支所も共通の課題と思われるので、地域連携部全体で改善案について話し合っていきたいと思っています。	B：概ね計画通り取組組めた	
				多文化共生課	イベントなどの機会に防災啓発を行うとともに、多言語情報紙及び多文化共生センターfacebook等を活用した生活情報を提供します。(多言語・やさしい日本語)	b：取組実績把握	—	—	—	「災害時に便利なアプリとWebサイト」に関するチラシ(6言語)を多文化共生課窓口を設置し、多言語情報紙に防災情報を掲載し多文化共生センターFacebook等を活用し生活情報を提供しました。(多言語・やさしい日本語)	「災害時に便利なアプリとWebサイト」をダウンロードし、いざというときに使用できるよう使い慣れておくための啓発を行っています。	B：概ね計画通り取組組めた	
				伊賀の伝丸	SNSを活用した多言語やさしい日本語での情報発信	c：その他	—	—	—	県、または県内NPOなどから発信される情報をFacebookやホームページで発信(やさしい日本語)しました。	予定通り	B：概ね計画通り取組組めた	
				エクセディ	避難訓練や安否確認メール訓練の実施	b：取組実績把握	—	—	—	・避難訓練(1回/年)を11月5日に実施しました。 ・安否確認メール訓練(3回/年)を7月24日、11月20日、2025年3月11日に実施しました。 ※24時間以内に全員から回答がありました。	・長期休暇中の安否確認システムの対象エリアを日本全国に変更します。 ・安否確認システムにLINE通知機能を追加します。	B：概ね計画通り取組組めた	
		② 情報を「つなぐ」機能と体制の構築	◆既存のネットワークや企業、地域等の「まとも役」を通じた情報伝達のしくみづくり	医療福祉政策課	地域生活課題について地域住民主体で解決に向けて協議を行う地域福祉ネットワーク会議を中心に、災害時においても情報が地域内で共有できるしくみを検討します。	b：取組実績把握	—	—	—	各地域で地域福祉ネットワーク会議が開催され、情報共有についての検討がなされました。	地域アセスメントなどをふまえ、地域の状況に応じたしくみづくりが必要です。	B：概ね計画通り取組組めた	
				エクセディ	・緊急連絡先の把握 ・通訳を介した情報発信	b：取組実績把握	—	—	—	伊賀市の情報、イベント等を発信しています。 ・「外国人のための生活ガイドブック」 ・「やさしいにほんごようほうし いが」など	継続的に配信していきます。	B：概ね計画通り取組組めた	
				同和課	各隣保館等総合相談事業での外国人にルーツのある方等の施設等利用・総合相談件数調査を行います。	b：取組実績把握	施設利用者数 総合相談件数	—	—	【寺田市民館】 外国にルーツのある人が小学校地区学業や寺田文化祭に参加しました。77人 総合相談…外国にルーツのある地域住民の相談に対し、関係部署へ連絡を行い付き添う等、解決まで適切に対応しました。 1件 【ライトピアおおやまだ】 行事に参加し、お互いに顔見知りになることにより、困った時に声掛けがきたり助け合える関係性を築く機会の提供ができました。 イベント・行事参加者数：56人	【寺田市民館】 特になし。引き続き、誰もが気軽に参加できるイベントや事業を行うとともに、相談者に適切に対応を行います。 【ライトピアおおやまだ】 行事に参加し、お互いに顔見知りになることにより、困った時に声掛けがきたり助け合える関係性を築く機会の提供を行います。	B：概ね計画通り取組組めた	
		◆ニーズ・困りごとの把握											

展開方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2024(R6)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2024(R6)年度 各主体の取組実績	② 2024(R6)年度 課題・改善案	④ 2024(R6)年度 取組に対する評価							
						タイプ※	指標名	見込値 (2024)	③ 実績値 (2024)										
				多文化共生課	外国人住民アンケート調査の継続実施、また、平時の相談業務からニーズ・困りごとなどの把握に努めます。	b：取組実績把握	—	—	—	外国人住民アンケート調査を実施しました。 回答数：241人 困りごとなど課内で相談業務内容を共有し、関係各課に繋げました。	アンケート調査は郵送だけでなく国際交流フェスタの会場においても実施しました。 回答数：ハガキ148人 フェスタ39人 その他54人 フェスタ会場ではタブレットやスマートフォンでの回答を求めたため全問回答していただく割合は増えましたが、紙の回答を無くしたことにより回答数は減少しました。 相談内容について課内の情報共有をしっかりと行うことで適切に関係各課に繋げることができました。	B：概ね計画通り取り組めた							
				伊賀の伝丸	平時の相談業務からニーズ・困りごとなどの把握、伴走支援中家庭へのアウトリーチによる現状把握	c：その他	—	—	—	平時の相談業務からニーズ・困りごとなどを把握しました。また、伴走支援中家庭へのアウトリーチによる現状把握を行いました。	対応するマンパワーが不足	B：概ね計画通り取り組めた							
	③ 地域参加を通じた日頃からの関係づくり	◆自治会及び自主防災活動への参加促進（「自治」への理解を深める）	防災危機対策局	防災知識の普及、訓練を実施する際、多様なニーズに十分配慮し、参加しやすい環境整備（防災講話等）	a：数値把握	防災講話等の開催回数	68回	85回	住民自治協議会や自主防災組織（自治会等）等からの要請により、地域防災力の向上を目的とした防災講話や防災訓練の指導、防災アプリの説明等を行いました。		防災危機対策局職員による防災講話や防災訓練の指導等を年間70回以上実施していますが、今後地区防災計画の策定を含めて推進していく必要があるため、地域に出向く職員の確保が課題となっています。また、毎年出前講座（防災講話等）の要請がある団体と全くない団体があることから、地域への広報・周知を充実させる必要があります。	A：計画以上に取り組めた							
													◆日常的な交流から防災訓練等に参加をつなげるしくみづくり						
													◆外国人防災リーダーの養成	多文化共生課	外国人防災リーダーを育成します。（伊賀市地域活動支援事業_協働促進支援コースを活用）	a：数値把握	外国人防災リーダー研修	受講者累計 35人	39人
		医療福祉政策課	災害時に自分の身を守り、防災啓発を行うリーダーを養成するために、引き続き外国人防災リーダーの養成に努めます。	a：数値把握	外国人防災リーダー研修	15人	8人	連続養成講座（3回）を開催し、8名の外国人防災リーダーを養成しました。	防災啓発、情報伝達の担い手の確保のため有効な取り組みであり、今後は、養成された外国人防災リーダー活用の取り組みを実施します。	B：概ね計画通り取り組めた									
		伊賀の伝丸	養成講座へのノウハウの提供や事業協力	c：その他					地域防災リーダー養成講座についてアドバイスをを行いました。	予定通り	A：計画以上に取り組めた								
		社会福祉協議会	外国人防災リーダーの育成事業（伊賀市地域活動支援事業_協働促進支援コースを活用）	a：数値把握	外国人防災リーダー研修受講者数	45人	39人	今年度は8名の外国人防災リーダー（災害時に自分の身を守り防災啓発活動を行う）の養成を行いました。能登半島地震に際し、外国人防災リーダー3名が被災地支援活動で活躍しました。	養成した外国人防災リーダーには、伊賀市災害ボランティアセンターへのサポーター登録を促しています。今後はSNS等でイベント等の呼びかけたり、県内の外国人防災リーダーとの交流などサポートを行っていく予定です。	B：概ね計画通り取り組めた									
	④ 防災知識の普及	◆防災教室・防火救命講習の開催	消防本部（管理課）	災害時に自分の身を守り、防災啓発活動を行う外国人防災リーダーを養成します。	a：数値把握	防火・救命講習を開催する	1回以上	1回	消防職員の指導による防火・救命講習で、防災知識の向上と救命活動による人材を養成しました。	昨年度と比較して、参加者が減少しました。 引き続き、優しい日本語や通訳アプリを使用し、より多くの国の方に対応していきます。	B：概ね計画通り取り組めた								
			国際交流協会	国際交流フェスタやひゅーまんフェスタ等を通じ、防災意識の普及を図ります。やさしい日本語を使った外国人対応の研修会を実施します。	a：数値把握	国際交流フェスタ来場者数	約1,500人	1,500人	・国際交流フェスタで、市、消防署、女性消防団、外国人防災リーダーによるブースの出展を依頼。防災知識の普及を行いました。 ・ひゅーまんフェスタに出展。ピクトグラムによる「減災アクションゲーム」を行いました。 ・やさしい日本語研修会では、防災に特化した内容を実施しました。	今後も色々な機会を通じ防災知識の普及に努めていきます。	B：概ね計画通り取り組めた								
			社会福祉協議会	外国人防災リーダーの育成事業（伊賀市地域活動支援事業_協働促進支援コースを活用）	a：数値把握	外国人防災リーダー研修受講者数	45人	39人	今年度は8名の外国人防災リーダーを養成。災害時に自分の身を守り、防災啓発活動を行う外国人防災リーダーの養成。	概ね計画通り取り組めました。	B：概ね計画通り取り組めた								
			エクセディ	避難訓練や消火訓練の実施	c：その他	訓練実施回数		5回	毎年継続的に実施 ・避難訓練（1回/年）11月5日実施 ・初期消火、煙道訓練（4回/年）5月22日、6月19日、10月2日、10月30日実施	毎年継続的に実施してまいります。	B：概ね計画通り取り組めた								
			社会福祉協議会	伊賀市災害ボランティアセンター設置訓練（災害VC）	a：数値把握	災害ボランティアセンター設置（運営）訓練への外国人防災リーダー参加者数		参加者 10人	なし	実施なし	R7年度には、誰にも分かり易い伊賀市災害ボランティア運営マニュアルを整備し、外国人防災リーダーの協力を得て運営訓練を実施していく。	C：あまり計画通りに取り組めなかった							
	1-A-(2) 外国人住民の高齢化への対応	① 情報発信の充実	◆多言語と「やさしい日本語」による福祉情報の充実	障がい福祉課	障害福祉サービスから介護サービス移行対象者への情報提供（やさしい日本語・多言語）をします。	b：取組実績把握	—	—	—	R6年度については対象者がいませんでした。	障害福祉サービスから介護サービスへの移行について支援者にも分かりやすく説明し、老後への不安を解消します。	E：不明、その他							

展開方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2024(R6)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2024(R6)年度 各主体の取組実績	② 2024(R6)年度 課題・改善案	④ 2024(R6)年度 取組に対する評価		
						タイプ※	指標名	見込値 (2024)	③ 実績値 (2024)					
				介護高齢福祉課	外国人被保険者へ通知を送付する際、やさしい日本語を使用しルビを入れたものを同封します。 介護保険料の払い忘れなど早期対応が必要なものについては、上記に加え、ポルトガル語・スペイン語・中国語対応の翻訳文を同封します。	c：その他	通知割合	100%	100%	外国人被保険者へ通知を送付する際、やさしい日本語を使用しルビを入れたものを同封しました。 介護保険料の払い忘れなど早期対応が必要なものについては、上記に加え、ポルトガル語・スペイン語・中国語対応の翻訳文を同封しました。	外国人相談者の増加が見込まれるも、今年度の対応件数は数件程度であり、今後に向けて効果的な対応方法を継続して検討していきます。	B：概ね計画通り取り組めた		
				地域包括支援センター	必要に応じて通訳者を介し、サービスや制度の説明を行います。	d：把握困難	-	-	-	日本語でのコミュニケーションが難しい場合は通訳を通してサービス等の説明を行いました。	今後、外国人の高齢化に伴い、相談件数が増加すると想定されます。相談内容や状況に応じて、通訳以外にも「やさしい日本語」や翻訳機能を利用して対応します。	B：概ね計画通り取り組めた		
				保険年金課	窓口において、多言語のパンフレットを用い、保険制度や医療助成制度の情報の発信を行います。また、各種通知の際には、翻訳またはやさしい日本語で文書を作成し、制度や手続きに関する情報を提供します。	b：取組実績把握	-	-	-	窓口において、多言語のパンフレットを用い、保険・年金の制度や、医療助成の制度について説明を行いました。また、各種通知は、翻訳した言語、またはやさしい日本語にルビを振ったものにするなど、制度や手続きに関する情報をわかりやすく届けられるようにしました。	後期高齢者医療について、75歳到達で新規加入する方へ資格確認書を交付する際、同封される制度案内のリーフレットは日本語のものです。三重県後期高齢者医療広域連合が発送するため県内で同一の封入物となっていますが、外国籍の方へ翻訳したリーフレットをお届けできるよう、広域連合と協議します。	B：概ね計画通り取り組めた		
				◆外国人向けライフステージ・ライフサイクルに応じたセミナーの開催	エクセディ	ライフサポートセミナーの開催（50歳以上の従業員が希望者）	b：取組実績把握	-	-	-	社員向けライフサポートセミナー（1回/年）の実施 2025/1/25（土）に実施しました。	継続的に実施します。	B：概ね計画通り取り組めた	
				◆社会福祉法人等との連携強化										
	② 相談体制の充実		◆通訳兼相談員の拡充	多文化共生課	多文化共生相談員を継続雇用します。	b：取組実績把握	-	-	-	外国人受入環境整備交付金などを活用し、多文化共生相談員7名を継続雇用しました。	今後も交付金を活用するなど、相談内容や状況に応じた多文化共生相談員の適切な雇用に努めます。 また、他部局においても通訳者が雇用されていますが、必要に応じて映像通訳や三者間通訳、透明翻訳ディスプレイなども活用し、多言語に対応した相談体制の充実を推進する必要があります。	B：概ね計画通り取り組めた		
					◆窓口等における対応力の向上（「やさしい日本語」の習得やケースの共有など）	多文化共生課	窓口における相談等の対応力向上のため、定例会などの機会に相談ケースの共有や研修を実施します。	a：数値把握	研修会の実施	1回	3回	・窓口における相談等の対応力向上のため、定例会などの機会に相談ケースの共有や研修を実施しました。 ・人権研修（DVD鑑賞、書籍など）を行い、窓口対応の向上を図りました。	今後も窓口における相談の対応力の向上のため、定期的に研修会等を開催します。 また、さまざまな視点から継続した研修を行い、窓口対応力の向上に努めます。	B：概ね計画通り取り組めた
					社会福祉協議会	ポケトークの活用や優しい日本語による可能な限りわかりやすい対応を実施します。	b：取組実績把握	-	-	-	電話、対面、アウトリーチ、メール等による相談援助業務・各関係機関への同行による支援・ひきこもりの居場所支援・ひきこもりサポーター養成、活用、家族支援・居住支援・地域啓発にも力をいれました。相談に関しては、ポケトークの活用や職員によるやさしい日本語での対応も取り入れられました。	母語による説明が必要な場面も多く、通訳が同行できる仕組みづくりなど、相談体制の構築が必要です。	B：概ね計画通り取り組めた	
					◆関係機関における情報・課題共有の場づくり									
	③ 福祉人材の育成	◆外国人の福祉人材の育成	医療福祉政策課	福祉教育プログラムに基づいた取り組みについてさらなる推進を図り、福祉人材の養成に努めます。	b：取組実績把握	-	-	-	住民自治協議会、自治会、サロン、小中学校、高等学校で福祉教育プログラムに基づいた講座を実施しました。	福祉人材の養成につながる福祉教育プログラムの一層の充実が必要です。	B：概ね計画通り取り組めた			
				介護高齢福祉課	外国人の会計年度職員を雇用し、雇用期間中に制度の内容を習得することで、初期対応の時点で趣旨を捉え、スムーズに対応できるようにします。	b：取組実績把握	-	-	-	外国人の会計年度職員を雇用し、雇用期間中に制度の内容を習得することで、初期対応の時点で趣旨を捉え、スムーズな対応ができました。	多言語対応の職員を雇用することは困難であるため、制度内容について更に理解を深め、他の手段（翻訳機器等）の使用も含めスムーズな対応となるよう努めます。	B：概ね計画通り取り組めた		
				伊賀の伝丸	外国人福祉人材対象の日本語講座の提供	c：その他	-	-	-	EPA介護福祉士候補者、特定技能スタッフ（介護）への日本語講座など、複数担当しました。	引き続き資格取得、施設内のコミュニケーション向上、指示の正確な理解などに貢献していきます。	B：概ね計画通り取り組めた		
				◆外国人材の採用促進										
	1-A-(3) 地域における生活支援の充実	① 生活オリエンテーションの充実	◆生活オリエンテーションやセミナーの実施	多文化共生課	転入外国人に対する生活オリエンテーションを実施します。	b：取組実績把握	-	-	-	事業所からの依頼で転入した外国人に対し、ゴミの出し方や交通ルールなどについてオリエンテーションを行いました。	外国人が転入手続きを行った際、多文化共生相談窓口を案内することで、生活オリエンテーションなどを活用する機会を作る取り組みが必要です。	B：概ね計画通り取り組めた		
				伊賀の伝丸	多言語生活相談	c：その他	-	-	-	生活オリエンテーションのニーズはありませんでした。	通訳が常駐していないので、必要があれば翻訳アプリの使用、または電話通訳を利用し、相談に対応していきます。	B：概ね計画通り取り組めた		

展開方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2024(R6)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2024(R6)年度 各主体の取組実績	② 2024(R6)年度 課題・改善案	④ 2024(R6)年度 取組に対する評価	
						タイプ※	指標名	見込値 (2024)	③ 実績値 (2024)				
				国際交流協会	多文化共生センター窓口の補完事業として軽微な相談活動及び関係機関等への取次	b: 取組実績把握	—	—	—	多文化共生センター窓口の補完業務として、来所者の軽微な相談への対応、関係機関への取次を行いました。	今後も知識の習得に努め継続し行います。	B: 概ね計画通り取り組めた	
				社会福祉協議会	日常生活の相談活動(市社協) 日常生活の相談活動(民児連)	b: 取組実績把握	—	—	—	市内全域で相談(アウトリーチ支援)ができる体制をとりました。また民生委員児童委員定例会にも出席しました。外国人住民の相談にも対応しました。	エリアごとに担当コーディネーターを配置することで外国人住民も相談しやすい体制が取れています。外国人住民へ事業周知方法を検討する必要があります。	B: 概ね計画通り取り組めた	
				◆生活ガイドブックの発行	多文化共生課	身近な人が外国人住民とコミュニケーションを図りながら基本的な生活について説明できるよう伊賀市版多言語生活ガイドブックを広く周知します。	b: 取組実績把握	—	—	—	「伊賀市でくらす外国人のための生活ガイドブック(6言語)」を発行し、定例記者会見、広報紙、Facebookなどで周知を行いました。また、住民自治協議会(39箇所)を訪問し、直に使用説明を行いました。さらに、永久利用できる二次元コードを活用したチラシを作成し配布しました。	必要な時にこそ活用してもらいたいので、継続してホームページや多言語情報紙などで生活ガイドブックの二次元コードを周知していきます。	B: 概ね計画通り取り組めた
				②地域における良好な関係づくり	◆地域等における「まとめ役」となる人材の育成	多文化共生課	地域等の研修会や出前講座を実施し、多文化共生に関する理解を深めます。	b: 取組実績把握	—	—	—	団体などの依頼に基づき、出前講座を行いました。回数: 5回	地域や学校など、多文化共生に取り組む活動が広がっています。引き続き出前講座を実施し多文化共生の理解促進に努めます。
1-A-(4) 生活困窮等対策の充実	①生活困窮等の対策の充実	◆生活困窮等にかかる相談窓口の周知		生活支援課	生活困窮者の就労先啓発のため企業訪問を行った際に、外国人の相談窓口についても啓発を行います。	b: 取組実績把握	—	—	—	R6年度で、困窮者の就労先開拓のため10社の企業訪問を行いました。生活困窮者自立支援制度の説明時に外国人の方の相談窓口の普及啓発を行いました。	企業訪問時に手渡せる外国籍の方の相談窓口のリーフレットがあると良いと思います。企業訪問だけでは周知効果は少なく、市HPや広報紙以外での普及啓発の方法を検討する必要があります。	B: 概ね計画通り取り組めた	
				伊賀の伝丸	当団体含め、市や社会福祉協議会など相談先の紹介	c: その他	—	—	—	SNSなどを通じて相談会などを周知し、相談から該当する窓口を案内しました。	特になし	B: 概ね計画通り取り組めた	
				社会福祉協議会	多言語版おあいこのパンフレットの配布、周知を図る。	b: 取組実績把握	—	—	—	おあいこのチラシを多言語(ポルトガル語・スペイン語・ベトナム語)で作成し、相談窓口を周知できるよう取り組みました。	特になし	B: 概ね計画通り取り組めた	
				◆窓口における対応力の向上(「やさしい日本語」の習得やケースの共有など)	多文化共生課	窓口における相談等の対応力向上のため、定例会などの機会に相談ケースの共有や研修を実施します。	a: 数値把握	(再掲) 研修会の実施	1回	3回	・窓口における相談等の対応力向上のため、定例会などの機会に相談ケースの共有や研修を実施しました。 ・人権研修(DVD鑑賞、書籍など)を行い、窓口対応の向上を図りました。	今後も窓口における相談の対応力の向上のため、定例的に研修会等を開催します。 また、さまざまな視点から継続した研修を行い、窓口対応力の向上に努めます。	B: 概ね計画通り取り組めた
				国際交流協会	「やさしい日本語」習得のための研修会への参加。	b: 取組実績把握	—	—	—	—	やさしい日本語研修会を実施するとともに、研修に参加しました。	研修会に継続し参加していきます。	B: 概ね計画通り取り組めた
1-B-(1) さまざまな相談に対する支援の充実	①福祉・生活ニーズの把握	—		多文化共生課	外国人住民アンケート調査の継続実施、また、平時の相談業務からニーズ・困りごとの把握をします。	b: 取組実績把握	—	—	—	外国人住民アンケート調査を実施しました。 回答数: 241人 困りごとなど課内で相談業務内容を共有し、関係各課に繋げました。	アンケート調査は郵送だけでなく国際交流フェスタの会場においても実施しました。 回答数: ハガキ148人 フェスタ39人 その他54人 フェスタ会場ではタブレットやスマートフォンでの回答を求めたため全問回答していただく割合は増えましたが、紙の回答を無くしたことにより回答数は減少しました。 相談内容について課内の情報共有をしっかりと行うことで適切に関係各課に繋げることができました。	B: 概ね計画通り取り組めた	
				医療福祉政策課	福祉ニーズを把握するために、毎年地域を決めて地域福祉ネットワーク会議単位でアンケートを実施しております。また、地域福祉コーディネーターが地域支援の一環で把握している地域アセスメントについても引き続き把握を行います。	b: 取組実績把握	—	—	—	地域アンケートを1地域で実施しました。また地域アセスメントを市内39地域で実施しデータを更新しました。	アンケートの結果、また地域アセスメントの内容を地域福祉ネットワーク会議などでフィードバックし、地域での自主的な活動により活用していただくことが必要です。	B: 概ね計画通り取り組めた	
				障がい福祉課	窓口対応等の支援(やさしい日本語・多言語)をします。	b: 取組実績把握	—	—	—	—	窓口が多言語表示可能な「透明字幕表示ディスプレイ」を設置し、多言語での窓口対応ができる環境を整えました。	字幕表示については、簡業で分かりやすく話を組み立てる会話スキルが必要です。	B: 概ね計画通り取り組めた

展開方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2024(R6)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2024(R6)年度 各主体の取組実績	② 2024(R6)年度 課題・改善案	④ 2024(R6)年度 取組に対する評価	
						タイプ※	指標名	見込値 (2024)	③ 実績値 (2024)				
				生活支援課	経済的困窮だけでなくとどまらず、ひきこもりなど社会的孤立など幅広い相談に対応します。外国人が抱える問題に寄り添いながら関係機関と連携し自立に向けた支援を提供します。	a：数値把握	外国人からの新規相談件数	60件	47件	継続的な支援が必要な方に本人の意向を尊重した支援プランを作成し、プランに基づき関係機関と連携しながら自立に向けた支援に取り組みました。	外国籍の方の新規相談件数が伸び悩んでいる要因が、困窮状態が改善したためなのか、窓口の周知不足のため相談に至らなかったのか判断がつきません。伊賀市における外国籍の方を取り巻く状況を適切に把握し、支援に繋げる必要があります。その他、外国籍の方にとって行政手続きは煩雑で難解なことも多く、手続きの簡素化やサポート体制の強化が必要と考えます。	C：あまり計画通りに取り組めなかった	
				介護高齢福祉課	今後、外国人相談者がますます増加することを見込み、多文化共生課や地域包括支援センターと連携・情報共有しながら、効果的な制度の周知方法を検討します。	a：数値把握	研修やセミナーへの参加・共有回数	1回	1回		地域包括支援センターを介して福祉サービスの周知を行うなど連携し申請に繋げる事ができました。	外国人相談者の増加が見込まれるも、今年度中の相談者は数人程度でした。今後に向けて効果的な制度の周知方法を継続して検討していきます。	B：概ね計画通り取り組めた
				保険年金課	窓口で医療保険や国民年金の相談を通じて、生活に支援が必要かどうかのニーズの把握に努めます。	b：取組実績把握	—	—	—		医療保険や国民年金の相談に来庁されたとき、通訳が必要な場合は同席し、課の担当者とともに対応をする中で、生活に支援が必要かどうかのニーズを把握し、支援が必要な場合は関係部署へつなぎました。	特になし	B：概ね計画通り取り組めた
				健康推進課	予防接種予診票の翻訳等をすすめてきているところで、要望接種の案内文等対応できていない文書の翻訳をすすめていきます。	b：取組実績把握	—	—	—		新しく追加になった予防接種の予診票や案内文等を翻訳しました。	対象者が多い言語についての予防接種予診票等の翻訳は対応していますが、まれに対応できていない言語もあるので、医療機関等に、翻訳が必要な言語について情報を得るようにします。	B：概ね計画通り取り組めた
				こども家庭支援課	母子健康手帳の外国語版の交付、予防接種予診票の翻訳等をすすめてきているところですが、各種案内文等対応できていない文書の翻訳をすすめていきます。	b：取組実績把握	—	—	—		妊娠期～子育て期における母子健康手帳の交付・幼児健診・保護者面談・訪問等にて、通訳者の依頼や翻訳アプリなどを利用して、福祉や生活ニーズ把握に努めました。	新しい事業や変更等の案内文等進めています。利用者の声を聞きながら新たに、必要な文書等翻訳を作成していきます。	B：概ね計画通り取り組めた
	② 相談・支援窓口における対応力の向上		-		多文化共生課	(再掲) 相談員対象の研修を実施します。	a：数値把握	(再掲) 研修会の実施	1回	3回	・窓口における相談等の対応力向上のため、定例会などの機会に相談ケースの共有や研修を実施しました。 ・人権研修(DVD鑑賞、書籍など)を行い、窓口対応の向上を図りました。	今後も窓口における相談の対応力の向上のため、定例的に研修会等を開催します。また、さまざまな視点から継続した研修を行い、窓口対応力の向上に努めます。	B：概ね計画通り取り組めた
					医療福祉政策課	高齢・障がい・子ども・生活困窮といった分野にかかる相談支援を一体的に行う重層的支援体制整備事業について、引き続き取り組みの推進を図ります。	b：取組実績把握	—	—	—	重層的支援体制整備事業実施計画に基づき、取り組みを推進しました。	多言語による相談窓口と福祉に関する相談機関がより連携を深める必要があります。	B：概ね計画通り取り組めた
					医療福祉政策課	「伊賀市救急・健康相談ダイヤル24」について契約どおり多言語対応がスムーズにできているか検証を行い、問題がある場合は業者と協議し改善を求めます。また、事業啓発も外国人のほか日本人へも様々なツールにより行います。また、他の外国語対応も検討します。	b：取組実績把握	—	—	—	4月当初に実証実験を行い、その結果について業者の各担当責任者とオンラインにて協議を行い、当市から改善のための提案や指導をしました。広く周知するため、日本語で事業啓発をする際には多言語対応が可能な旨を併記しました。多言語情報紙へは毎月掲載し、告知チラシは本庁及び5支所での転入手続き時の配布のほか本庁舎内数か所に配置をしています。	相談件数が少ないため、多文化共生課とも協議のうえ更に広く周知する必要があります。他の言語については、検討できませんでした。	B：概ね計画通り取り組めた
					障がい福祉課	窓口で使用する申請書類の支援及び各種お知らせ等の情報提供(やさしい日本語・多言語)をします。	b：取組実績把握	—	—	—	使用頻度が高い書類については、ポルトガル語、スペイン語版等を用意しています。申請書記入に関しては、必須記入箇所を○をつけたり、ローマ字によるメモを添えるなどしてわかりやすく案内しました。	申請書は種類が多く複雑な内容もあることから、使用頻度の高いものなど優先度を決めて、順次やさしい日本語、多言語の対応をしていきます。	B：概ね計画通り取り組めた
					生活支援課	生活保護、生活困窮者自立支援の相談支援において多文化共生課の通訳の協力を得て、面談時の通訳や文書の翻訳をなどわかりやすく説明を行います。	c：その他	—	—	—	通訳者の同席やタブレット端末を使った通訳など、外国籍の方に理解しやすい相談支援に努めました。また、電話対応において3者間通話を行うなど、多文化共生課の通訳以外での通訳方法にも取り組みました。	タブレット端末による通訳は、年間の総通訳時間の制限があり、利用頻度を意識的に下げています。今後、外国籍の方からの相談が増加するのであれば、タブレット契約の内容の変更が必要となります。その際、各相談窓口で契約するの、市で一括契約するの検討が必要と考えます。	B：概ね計画通り取り組めた
					介護高齢福祉課	今後、外国人相談者がますます増加することを見込み、職員の「やさしい日本語」の習得や、対応をスムーズに行う手段(翻訳機器等)として、窓口で翻訳機能付きの字幕表示ディスプレイの設置を進めます。外国人支援に関する研修やセミナー等積極的に参加し、課内で情報共有し、可能なことは順次実践していきます。	b：取組実績把握	—	—	—	職員の「やさしい日本語」の習得や、対応をスムーズに行う手段(翻訳機器等)として窓口で翻訳機能付きの字幕表示ディスプレイを設置しました。主に保険料の納付に関する相談に対応しました。	外国人相談者の増加が見込まれるも、今年度中の相談者は数人程度でした。今後に向けて効果的な対応方法を継続して検討していきます。	B：概ね計画通り取り組めた

展開方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2024(R6)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2024(R6)年度 各主体の取組実績	② 2024(R6)年度 課題・改善案	④ 2024(R6)年度 取組に対する評価	
						タイプ※	指標名	見込値 (2024)	③ 実績 値 (2024)				
				障がい福祉課	今後、外国人相談者がますます増加することを見込み、対応をスムーズに行う手段（翻訳機器等）として、窓口で翻訳機能付きの字幕表示ディスプレイの設置を進めます。	b：取組実績把握	—	—	—	R6年9月に窓口対応をスムーズに行う手段として多言語表示ができる「透明字幕表示ディスプレイ」を設置しました。	字幕表示については、相手に分かりやすく説明するための手段として有効に活用していく必要があります。	B：概ね計画通り取り組めた	
				保険年金課	ポルトガル語の通訳員を雇用します。対応できない言語の場合は、翻訳タブレットを活用します。	b：取組実績把握	—	—	—	ポルトガル語の通訳員を雇用しました。対応できない言語の場合は、翻訳タブレット等を活用し、接客を行いました。	特になし	B：概ね計画通り取り組めた	
				こども家庭支援課	訪問や相談対応時に通訳者の依頼や翻訳機等を利用して、相談や支援をします。	b：取組実績把握	—	—	—	家庭訪問や面談相談等、通訳者の依頼をすくと共にタブレットや翻訳機利用にて、分かりやすい相談や支援をしました。	対面による通訳が一番効果的ですが、庁舎外や急遽対応時は、タブレットや翻訳機を使用して、的確に安心できる相談支援が求められます。	B：概ね計画通り取り組めた	
				健康推進課	訪問や相談対応時に通訳者の依頼や翻訳機等を利用して、相談や支援をします。	b：取組実績把握	—	—	—	窓口での相談やメール等での相談について通訳や翻訳機を利用して対応しました。	事前に通訳が必要ながわわっている場合は、スムーズに相談を受けることができますが、急な相談の場合、通訳者がいないこともあり、すぐに相談を受けられないことがあるので、通訳者との連携や翻訳機等がすぐに使用できるようにする必要があります。	B：概ね計画通り取り組めた	
	1-C-(1) 就労と居住に関する支援の充実	① 就労支援の充実	—		多文化共生課	就労に関する情報発信など、関連機関と連携し就労機会を確保します。	b：取組実績把握	—	—	—	雇用・労働に関する相談を多言語で聴取し、問題解決のために関係機関と連携を図りました。	今後も関係機関と連携し、よりより支援につなげていきます。	B：概ね計画通り取り組めた
					商工労働課	多文化共生センターや通訳兼相談員などと連携しながら就労相談を行います。また、人権啓発企業訪問の際に外国人雇用があるか確認の上、言葉や文化に対する取り組みを行っているか実態把握し、取り組みがないなら取り組むよう検討を促します。	b：取組実績把握	—	—	—	職業相談員による職業相談を実施するとともに、人権啓発企業訪問において外国人の雇用等に関する啓発を行いました。 3月末までに192回の職業相談を実施するとともに、人権啓発企業訪問において227の企業・事業所に対して訪問等による啓発を実施しました。	人権啓発企業訪問において、業務多忙等の理由で訪問を辞退する企業・事業所がいくつかありました。こうした企業・事業所へは書類を郵送する形での啓発としました。	B：概ね計画通り取り組めた
		② 居住支援の充実	—		多文化共生課	住居に関する情報発信など、住宅課と連携して行います。	b：取組実績把握	—	—	—	市営住宅入居者募集について、多言語情報紙で情報発信を行いました。	住宅課と連携し、住居を探している外国人に必要な情報を届けることができました。	B：概ね計画通り取り組めた
					住宅課	賃貸住宅相談会の開催及び外国語通訳者の配置 安心住まい情報等の多言語版情報誌の設置 市営住宅募集にかかる多言語版の案内及び通訳者の確保	b：取組実績把握	—	—	—	安心住まい情報等の多言語版情報誌の設置と市営住宅募集にかかる多言語版の案内及び通訳者の確保を行いました。	賃貸住宅相談会は実施効果が見込めないと判断し中止となりました。今後の開催について要検討となります。市営住宅募集に関しては年2回の募集で外国人計1世帯から申し込みがありました。	C：あまり計画通りに取り組めなかった
1-C-(2) 外国人差別への対応	① 外国人差別に対する相談と救済の実施	—		人権政策課	人権相談窓口における外国人差別に対する相談と救済を実施します。	b：取組実績把握	—	—	—	外国人差別に関する相談について問題解決と当事者の救済に取り組みました。	外国人住民の生活相談事例から、それが差別であると見抜ける能力が必要となります。相談員の人権研修参加を促しました。	B：概ね計画通り取り組めた	
				多文化共生課	外国人差別に対する相談について、問題解決と当事者の救済に人権政策課と連携し取り組みます。	b：取組実績把握	—	—	—	外国人差別に関する相談について人権政策課と連携し問題解決と当事者の救済に取り組みました。	相談内容によっては差別事象であると認識（判断）できるように、相談員の人権意識を高めています。	B：概ね計画通り取り組めた	

伊賀市多文化共生推進プラン（第1期）進捗管理シート

展開方	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2024(R6)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2024(R6)年度 各主体の取組実績	② 2024(R6)年度 課題・改善案	④ 2024(R6)年度 取組に対する評価			
						タイプ※	指標名	見込値 (2024)	③ 実績 値						
<b>2 教育・子育てしやすい地域づくり</b>															
2-A-(1) 子育て情報の充実	① 情報発信の充実	◆多様なツールを活かした情報発信	多文化共生課	多言語情報紙及び多文化共生センターfacebook等を活用した子育て情報を提供します。（多言語・やさしい日本語）	b：取組実績把握	—	—	—	広報「いが」の中から子育て情報を抜粋し、多言語情報紙で情報発信しました。（月1回）また、facebookでも子育てに関する情報発信を行いました。	伊賀市多文化共生センターのHPを今年度リニューアルしました。今後も、関係部局と連携しながら、子育てに関する情報を多言語情報紙、facebook、HPなど様々なツールで情報発信を行う必要があります。	A：計画以上に取り組めた				
				子育て支援室	市内8か所の子育て支援センター案内チラシ（5か国語）を作成し、子育て支援センターをまだ利用したことのない子育て世代に知ってもらえるように活用します。	b：取組実績把握	—	—	—	市内8か所の子育て支援センター案内チラシ(5か国語)を作成しました。	市内子育て支援センター案内チラシを赤ちゃん訪問の際に配付します。	B：概ね計画通り取り組めた			
				こども家庭支援課	子育て事業等、翻訳機やSNS等を利用して案内や子育て情報を提供します。	b：取組実績把握	—	—	—	子育て情報やこども家庭センター機能等、案内や勧奨等、翻訳機やHPを通じて情報発信しました。	翻訳機やHP以外に、利用者の声を聞きながら必要時には外国語版等状況に応じて作成します。	B：概ね計画通り取り組めた			
				保育幼稚園課	・窓口に通訳（2か国語）を配置します。 ・公立2園には主にポルトガル語通訳が可能な保育補助を配置します。 ・通訳者の不在時、または通訳者に対応出来ない言語の場合は、タブレット端末（ポケトーク）を利用した多言語通訳システムにより対応します。	b：取組実績把握	—	—	—	・窓口に通訳（2か国語）を配置しました。 ・公立2園には主にポルトガル語通訳が可能な保育補助を配置しました。 ・通訳者の不在時、または通訳者に対応出来ない言語の場合は、通訳端末（ポケトーク）を利用した多言語通訳システムにより対応しました。 ・保育アプリの導入により連絡帳を多言語化しました。	・通訳の勤務時間外は窓口、電話対応に苦慮する場合があります。 ・対象となる児童の増加により通訳端末（ポケトーク）が不足する場合があります。	B：概ね計画通り取り組めた			
				学校教育課	児童生徒や保護者が学校生活等に関する連絡や相談等について、母語で意思疎通できるよう電話通訳等による対応を行います。また、県の外国人児童生徒巡回相談員やNPO法人を活用します。	d：把握困難	—	—	—	県の外国人児童生徒巡回相談員やNPO法人を活用し、通訳者派遣や翻訳について学校からの要請に対応しました。また、タブレットを上野東小学校、上野西小学校、学校教育課に配置し、電話通訳等が必要な学校へ貸し出すことを広く周知し、活用の幅を広げました。	通訳者派遣や翻訳について学校からの要請に適切に対応し、学校と子ども、保護者とのつながりを支援することができました。特にタブレットによる電話通訳については多くの学校で活用し、保護者とのつながりにおいて非常に効果的でした。今後、多国籍化、点在化により通訳・翻訳の需要がますます高まることが予想され、予算面においての課題が予想されます。	B：概ね計画通り取り組めた			
				医療福祉政策課	◆子育てセミナー・交流会の開催 高齢・障がい・こども・生活困窮といった分野にかかわる地域づくり支援を一体的に行う重層的支援体制整備事業について、引き続き取り組みの推進を図ります。	b：取組実績把握	—	—	—	重層的支援体制整備事業実施計画に基づき、取り組みを推進しました。	多言語による相談窓口と福祉に関する相談機関がより連携を深める必要があります。	B：概ね計画通り取り組めた			
				社会福祉協議会	外国人住民交流支援事業（国際交流フェスタの会場内にて缶バッジを販売し、伊賀市内の福祉活動を啓発）	a：数値把握	社協ブース来場者数	100	83	国際交流フェスタにおいて缶バッジづくり体験を実施し、福祉啓発を行いました。	こどもや誰でも参加できるきっかけづくりとして缶バッジ作りは取り組みやすかったが、福祉啓発にはプログラムの見直しが必要です。来年度は、年齢に応じたプログラム作りや、外国人の生活課題に関するアンケート調査の実施も検討します。	B：概ね計画通り取り組めた			
				② 相談体制の充実	◆通訳兼相談員の拡充	多文化共生課	多文化共生相談員を継続雇用します。	b：取組実績把握	—	—	—	外国人受入環境整備交付金などを活用し、多文化共生相談員7名を継続雇用しました。	今後も交付金を活用するなど、相談内容や状況に応じた多文化共生相談員の適切な雇用に努めます。 また、他部局においても通訳者が雇用されていますが、必要に応じて映像通訳や三者間通話、透明翻訳ディスプレイなども活用し、多言語に対応した相談体制の充実を推進する必要があります。	B：概ね計画通り取り組めた	
						◆窓口における対応力の向上（「やさしい日本語」の習得や相談ケースの共有など）	多文化共生課	窓口における相談等の対応力向上のため、定例会などの機会に相談ケースの共有や研修を実施します。	a：数値把握	(再掲) 研修会の実施	1回	3回	・窓口における相談等の対応力向上のため、定例会などの機会に相談ケースの共有や研修を実施しました。 ・人権研修（DVD鑑賞、書籍など）を行い、窓口対応の向上を図りました。	今後も窓口における相談の対応力の向上のため、定例的に研修会を開催します。 また、さまざまな視点から継続した研修を行い、窓口対応力の向上に努めます。	B：概ね計画通り取り組めた
						◆支援が必要な子どもの早期発見	伊賀の伝丸	伴走支援中家庭へのアウトリーチによる現状把握	c：その他	—	—	—	支援中の家庭や、ささゆり教室の生徒などで気になる家庭の把握するようにしています。	家庭との連携	B：概ね計画通り取り組めた
		◆関係機関における情報・課題共有の場づくり													
2-A-(2) 子ども・若者の居場所づくり	① 子ども・若者の居場所づくり	◆地域における子ども・若者の居場所づくりに関する取組の推進	こども未来課	B&G財団の助成金を原資として、こどもの居場所づくりを行う団体への補助を行います。	b：取組実績把握	—	—	—	補助金を交付しました。 (開設費25,000,000円、運営費5,600,000円)	B&G財団からの助成金受け取り終了後は、こどもの居場所づくりに伴う財政的支援について、国の補助金を活用しながら支援を検討します。	B：概ね計画通り取り組めた				
			生涯学習課	小学生を対象として、放課後や長期休暇中の活動拠点（居場所）を提供します。	a：数値把握	放課後子ども教室開設数	5か所	5か所	小学生を対象として、安心・安全なこどもの活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちと共に勉強やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の取り組みを推進できました。	定期的な活動を実施しました。また、令和7年度に1教室が新設される予定のため準備を行っています。	B：概ね計画通り取り組めた				

展開方	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2024(R6)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2024(R6)年度 各主体の取組実績	② 2024(R6)年度 課題・改善案	④ 2024(R6)年度 取組に対する評価	
						タイプ※	指標名	見込値 (2024)	③ 実績値				
				社会福祉協議会	・地域食堂連絡会を基点にした伊賀市内の地域食堂（こども食堂）の推進 ・あらゆる世代が集える居場所づくりの支援（コミュニティカフェ、10代カフェ）	b：取組 実績把握	新規の居場所立ち上げ数	3	3	外国人住民も含む地域住民（こども）が身近な居場所として参加できる地域食堂（こども食堂）の運営、立ち上げ支援を行いました。	概ね計画通り取り組めました。	B：概ね計画通り取り組めた	
				国際交流協会	イベント等を通じ、日本のあそびや伝統文化などの紹介をする。	b：取組 実績把握	—	—	—	・漢字学習支援教室で学習する外国につながる児童を対象に、日本文化や風習、俳句を学ぶ機会を設けました。 ・国際交流フェスタで日本のあそびブースを出展。多くの子ども達が楽しんでいました。	・親子で参加できる催し等を継続し実施します。	B：概ね計画通り取り組めた	
				伊賀の伝丸	若者支援（悩み相談、受診支援、就職支援） 学習支援教室ささゆりの運営実施（受託）	c：その他	—	—	—	ささゆり教室では学習の他、気になる子には面談を行っています。	面談や通訳スタッフを配置しても、こども自身が面談を拒否することもあります。（待つしかない）	B：概ね計画通り取り組めた	
	2-B-(1) 児童生徒一人ひとりに合った教育の推進	①「特別的教育課程」による指導の推進	—		学校教育課	外国人児童生徒が日本語で学校生活を営み、学習に取り組むことができるよう、市内小中学校に在籍するすべての日本語指導が必要な外国人児童生徒に「特別的教育課程」を編成し、日本語指導を行います。	a：数値 把握	「特別的教育課程」を編成し、日本語教育に取り組む学校	100%	100%	市内小中学校に在籍するすべての日本語指導が必要な外国人児童生徒に「特別的教育課程」を編成し、日本語指導を行いました。	外国人児童生徒の多国籍化・点在化により、日本語指導にあたる教員の人的・時間的余裕がなく、特に小規模校においては厳しい状況にあります。ボランティア指導員の募集や確保等について模索中です。	B：概ね計画通り取り組めた
					伊賀の伝丸	つたまる新渡日児童生徒 個別学習支援	c：その他	—	—	—	義務教育年齢を過ぎた生徒の高校受験支援を行っています。令和6年度は3名の生徒を支援しました。	特になし	A：計画以上に取り組めた
	2-B-(2) 子育て支援に関する相談の充実	① 発達支援に関する相談体制の充実	—		こども家庭支援課	多言語での通訳・翻訳を受けられる地域づくりを行います。	c：その他	多言語対応	20回	23回	安心して子育て相談や発達支援の相談ができるよう、通訳者の依頼や翻訳機を利用して保護者の気持ちに寄り添った支援をしました。	相談や事業で要望があった場合は通訳者の依頼をしますが、困難な場合もあります。その場合翻訳機を利用して個別に理解しやすい内容で対応していきます。	A：計画以上に取り組めた
	2-C-(1) 日本語指導、進学指導の充実	① 日本語学習指導の充実	—		多文化共生課	関係団体やNPOと協働し、外国につながるを持つ児童生徒に日本語による教科学習支援を行います。	b：取組 実績把握	—	—	—	関係団体やNPOと協働し、外国につながるを持つ児童生徒に日本語による教科学習支援を行いました。	今後も関係団体やNPOと協働し、外国につながるを持つ児童生徒に日本語による教科学習支援を行う必要があります。	B：概ね計画通り取り組めた
					学校教育課	各校に日本語指導コーディネーターを派遣し、日本語指導担当者に対する指導や日本語能力測定方法等の研修などを実施するとともに、外国人児童生徒教育の担当者を対象に研修を実施します。	b：取組 実績把握	—	—	—	外国人児童生徒教育コーディネーターである船見和秀先生を小中学校へ派遣し、日本語指導担当者に対する指導や日本語能力測定方法等の研修、個別の測定のサポートを行い、受入体制の整備につなげました。また、船見先生を講師として、市内全小中学校の外国人児童生徒教育（日本語指導教育）の担当者を対象に日本語指導者研修会を行いました。 （1）第1回研修会（5月27日） ・講義「日本語指導の基礎～社会の状況の変化をふまえて～」 （2）第2回研修会（7月29日） ・講義「キャリア教育を見据えた日本語指導とは～やさしい日本語の視点で～」 ・ワークショップ	外国人児童生徒教育コーディネーターを派遣することにより、小中学校の指導体制や日本語指導等の課題に応えることができました。また、児童生徒の日本語能力に合わせて、適切な教材の紹介やその活用等、必要な情報を提供することができました。 研修会では、「やさしい日本語」で話すポイントとしての「ハサミの法則」や、児童生徒の多様な背景をつかみ、長期的な将来ビジョンを把握したうえでの取り組みや、進路指導に関する情報提供を早期から進めていくことの重要性を学ぶことができました。	B：概ね計画通り取り組めた
		② 進学に関する支援の充実	—		学校教育課	市内すべての中学校において、高校進学等に向けた進路指導・キャリア教育を実施します。また、外国にルーツをもつ児童生徒とその保護者を対象に進路ガイダンスを開催し、高校入試や進学後の費用等について説明します。	b：取組 実績把握	—	—	—	外国につながるをもつ児童生徒とその保護者を対象に、「伊賀地区外国につながるをもつ子どもと保護者の進路ガイダンス」を実施しました。小学5年生から中学3年生とその保護者を対象とし、9月29日に開催しました。 【進路ガイダンスの内容】 ・日本の学校制度や高校入試についての説明を母語別に行いました。 ・希望する高校との個別面談を中学3年生とその保護者を対象に行いました。 ・「先輩からのメッセージ」として、市内の小中学校を卒業し、現在、高校・大学・職場等で活躍する先輩を招き、高校受験に向けた学習や学校生活について、当時の思いを交えて話してもらいました。	小中学生79名と保護者85名が参加しました。 参加者からは、「とても役に立った」「とてもわかりやすい。」「高校で勉強する生徒の声を聞くことは重要です。」等の感想が寄せられ、それぞれの進路に向けて、貴重な機会となったことが感じられました。 参加者及び希望者には言語別（ポルトガル語、スペイン語、中国語、英語、タイ語、フィリピン語、日本語）の「高校進学ガイドブック2024」を配付しました。【翻訳されていて、多くの疑問が解消され助かった】等の感想がありました。今後も社会情勢や参加者のニーズに応じて運営に工夫を重ね、児童生徒の進路保障に取り組みます。	B：概ね計画通り取り組めた
					伊賀の伝丸	若者支援（既卒の進学支援） 学習支援教室ささゆりの運営実施（受託）	c：その他	—	—	—	個別学習支援は2-B-(1)に記述のとおり。 学習支援教室ささゆりの運営実施/進路ガイダンスを教育委員会と共催で実施しました。	進路ガイダンスのノウハウの継続(属人化を止める)	B：概ね計画通り取り組めた

展開方	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2024(R6)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2024(R6)年度 各主体の取組実績	② 2024(R6)年度 課題・改善案	④ 2024(R6)年度 取組に対する評価
						タイプ※	指標名	見込値 (2024)	③ 実 績値			
	2-C-(2) 就学に関する情報提供の充実	① 就学に関する情報提供の充実	—	学校教育課	多言語版の就学パンフレットを用いて、日本の学校教育や就学の手続き、学校生活等の説明を行います。	b：取組実績把握	—	—	—	編入・転入時には、多言語版の就学パンフレットを用いて就学相談を行いました。その際、通訳者を併い丁寧に説明を行いました。また、状況に応じて初期適応指導教室への入室を勧めました。【初期適応指導教室15人入室（R6年度1月時点）】	パンフレットを活用して、日本の学校教育等の説明をスムーズに進めることができました。現在、ポルトガル語・スペイン語・中国語・フィリピン語・タイ語・英語・日本語の7言語のパンフレットで対応していますが、ベトナム語も必要です。	B：概ね計画通り取り組めた
		② 未就学児童への対応	—	学校教育課	住民課と連携し、住民登録の際には教育委員会にも来ていただくよう依頼します。万一、未就学の児童生徒を把握した際には、家庭訪問のうえ就学を促します。外国人学校へ通学している場合も、在籍証明書の提出を依頼します。	c：その他	—	—	—	住民課と連携し、住民登録の際には教育委員会にも来ていただくよう依頼しました。万一、未就学の児童生徒を把握した際には、家庭訪問のうえ就学を促しました。外国人学校へ通学している場合も、在籍証明書の提出を依頼しました。	今後も住民課との連携をより一層強化し、外国人児童生徒の就学状況を把握し、就学促進を図ります。	A：計画以上に取り組み始めた

伊賀市多文化共生推進プラン（第1期）進捗管理シート

展開方	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2024(R6)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画				活動指標(把握可能なもの)				① 2024(R6)年度 各主体の取組実績	② 2024(R6)年度 課題・改善案	④ 2024(R6)年度 取組に対する評価
					タイプ※	指標名	見込値 (2024)	③ 実績 値	タイプ※	指標名	見込値 (2024)	③ 実績 値			
3 国籍を越えた交流による地域づくり															
3-A-(1) 「やさしい日本語」の普及	① 「やさしい日本語」の普及	◆行政職員向け「やさしい日本語」の研修実施・普及	人事課	多文化共生課が行う職員向け研修について、職員が積極的に受講できるよう受講環境の整備について検討するほか、新採研修に多文化共生に関する研修を取り入れるなど、各所属における業務、研修がある中でどのような形での実施方法が適当か引き続き検討していきます。	a: 数値把握	研修会の実施	1回	1回	多文化共生課と調整し、新規採用職員を対象とした「多文化共生とやさしい日本語について」の研修を行いました。	各所属における業務や研修がある中で、どのような形での実施方法が適当か引き続き検討していきます。	B: 概ね計画通り取り組めた				
					多文化共生課	職員向け「やさしい日本語」研修会を行います。	a: 数値把握	研修会の実施	1回			1回	職員向け「やさしい日本語」研修会を行いました。前半は、「やさしい日本語」の作り方の講義。後半では、やさしい日本語で、外国人住民に向けた防災訓練の案内をグループに分かれてポスターを作成した。前半の講義で学んだことを生かして外国人住民にも、わかりやすい工夫を凝らしたポスターの作成体験ができたので、今後の業務で即実践できる研修となりました。	研修内容がマンネリ化してきているので、趣向を凝らした「やさしい日本語」研修を行い、普及につなげていく必要があります。	B: 概ね計画通り取り組めた
					伊賀の伝丸	やさしい日本語講座への講師派遣	a: 数値把握	講座参加者合計数	500人			20人	やさしい日本語講座を担当しました。	特になし	B: 概ね計画通り取り組めた
					多文化共生課	やさしい日本語講座の実施、講師派遣	a: 数値把握	研修受講者数	40人			107人	国際交流協会に事業委託し、「やさしい日本語」の普及に努めました。また、地域の出前講座などで「やさしい日本語」の普及啓発に取り組みました。	今後は実践編として、外国人と日本人の両者で行う研修の機会を設けていきます。	B: 概ね計画通り取り組めた
					社会福祉協議会	外国人防災リーダー育成事業「やさしい日本語」の普及(伊賀市地域活動支援事業_協働促進支援コースを活用)	a: 数値把握	やさしい日本語講座参加者数	25人			20人	2/16、市民向けに「災害時外国人にも伝わりやすい『やさしい日本語講座』」を実施し、外国人防災リーダー7人の協力を得て、災害時に避難所における外国人住民の受付のロールプレイを開催し、20人が学びました。	民生児童委員、自治協関係者（防災部会等）、伊賀市災害VC運営スタッフなど、災害時に役割を担う可能性がある方を中心に啓発し、避難所運営等の際に活用できるスキル習得に向けた取り組みとして、継続的な実施が必要です。	B: 概ね計画通り取り組めた
					伊賀の伝丸	(再掲) やさしい日本語講座の実施、講師派遣	c: その他						翻訳アプリ活用講座を受託実施(やさしい日本語についても解説)しました。災害時にも役立つやさしい日本語講座を担当しました。	翻訳アプリ講座のニーズが確認できました。	B: 概ね計画通り取り組めた
					国際交流協会	やさしい日本語研修会(中級編)の実施。自治協議会等へのやさしい日本語研修会への講師派遣。	b: 取組実績把握	やさしい日本語研修会(中級編) やさしい日本語研修会(講師派遣)	25人 4回			19人 5回	・7月11日、市民を対象に「やさしい日本語研修会(中級編)」を開催。テーマは「やさしい日本語で防災を考える」としました。(参加者19人) ・市内4住民自治協議会、1自治会で開催した「やさしい日本語研修会」へ講師を派遣し、普及に努めました。(参加者延べ88人)	本年度は全市民対象や地域での研修会を開催しました。やさしい日本語の認知度が高まっており一定の成果はあったと思われます。今後は実践編として、外国人と日本人の両者で行う研修の機会を設けていきます。	B: 概ね計画通り取り組めた
					中外医薬	外国人の方だけではなく、障がい者の方にも「やさしい日本語」の取組を進めていく。	b: 取組実績把握						社内の案内用チラシと並行して対象者には個々でやさしい日本語を使ったチラシ等を作成し、個々に説明をしました。	対象者がこちらが把握している以上にいる可能性もあるので並行して周知していきたい。	B: 概ね計画通り取り組めた
3-B-(1) 文化・スポーツ交流の促進	① 多文化交流機会の充実	-	上野図書館	多言語で外国語表記のある絵本等の読み聞かせを行います。	a: 数値把握	多言語おはなし会の開催数	2回	2回	日本語、スペイン語、ベトナム語、ポルトガル語、英語での読み聞かせを行い、参加者の外国語への興味及び理解に繋がりました。	外国に繋がりのある子どもの参加が少ないため、ターゲットを絞ったSNS発信やチラシ配布等を行い、参加者を増やす必要があります。	B: 概ね計画通り取り組めた				
			多文化共生課	多文化共生理解事業や国際交流フェスタなどを通して多文化交流の機会を充実します。	a: 数値把握	多文化共生理解イベントの実施	3回	4回	・10月6日(日)JAいがふるさと「ひざっこ」で「国際交流フェスタ」を開催、各国の文化や日本の文化の紹介等を行い、約1,500人の入場者がありました。また、在住外国人の実行委員を募集行うも1名にとどまりました。 ・青山ハーモニーフォレストとの共催で世界の料理教室を3回(ベトナム料理、中国料理、ペルー料理)開催、延べ51人が参加しました。	・外国人のフェスタ実行委員会委員は当該年度は1名でした。次年度は2~3名増員したいと考えています。 ・料理教室は好評で毎回参加者が多いので今後も継続して実施します。	B: 概ね計画通り取り組めた				
			文化振興課	芭蕉翁生誕380年記念事業の一環として「学習まんが 芭蕉さん」を多言語で閲覧できるデジタル版で作成しました。	b: 取組実績把握	-	-	-	「学習まんが 芭蕉さん」を多言語で閲覧できるデジタル版で作成し12月に公開しました。市内小中学校の児童・生徒に案内チラシを配布しました。	修正が必要な部分があり、適宜確認・修正を行います。	A: 計画以上に取り組めた				
	② 市民、地域が主体となった交流の促進	-	多文化共生課	出前講座などによる、多文化理解の啓発を行います。	a: 数値把握	出前講座の実施	5回	5回	学校等の依頼を受けて出前講座を実施しました。住民自治協議会訪問時に、地域主催の交流会などに多文化共生相談員の派遣が可能であることを周知するとともに、地域イベントの翻訳チラシの作成やポイスラの周知を行い、外国人住民が、地域住民と繋がるきっかけをつくることができました。	自治協への訪問調査を行ったことで、各地域ですぐに取り組んでいること、行政の取組みについて情報交換ができ、顔の見える関係ができました。次年度以降の取り組みのきっかけづくりになりました。	B: 概ね計画通り取り組めた				

展 開 方	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2024(R6)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2024(R6)年度 各主体の取組実績	② 2024(R6)年度 課題・改善案	④ 2024(R6)年度 取組に対する評価
						タイプ※	指標名	見込値 (2024)	③ 実 績値			
				エグゼディ	各種イベントの幹旋（伊賀FCくノー三重のホーム試合観戦など）	b：取組実績把握	—	—	—	・3～10月 伊賀FCくノー三重ホームゲーム 観戦チケットの幹旋 ・11/30 クリーンキャンペーン実施	継続的に実施します。	B：概ね計画通り取り組めた
	3-C-(1) 学習・文化活動に参加できる環境づくり	① 生涯学習・文化施設等における多言語対応の推進	—	上野図書館	外国語表記のある絵本を充実することで、外国につながるのある子どもたちや市民に供し、異文化理解につなげます。	a：数値把握	外国語の絵本の購入冊数	20冊	22冊	計画通り購入を進めました。既に配架している外国語表記のある絵本と同様、利用者への閲覧・貸出を進めました。	いろいろな言語の絵本を所蔵し、より多くの選択肢を提供する必要があるため、引き続き所蔵冊数の増加を進めます。	B：概ね計画通り取り組めた
				生涯学習課	生涯学習事業資料を簡単な言葉で作成するなど、わかりやすく提供するよう努めます。	d：把握困難	—	—	—	子どもを対象とした事業のチラシにはルビを付ける、資料にはイラストを用いるなど工夫して提供しました。	子どもを対象とした事業については、外国籍の児童の参加がありましたが、一般を対象とした事業については参加がほとんどなく、今後は一般向けにもわかりやすい内容で提供していくことが必要だと感じました。	B：概ね計画通り取り組めた
	3-C-(2) 外国人住民との連携・協働	① 住民同士の連携・協働の促進	—	医療福祉政策	地域住民と外国人住民が交流する事業等について、地域福祉ネットワーク会議を中心にそれぞれの地域で検討していくように努めます。	b：取組実績把握	—	—	—	各地域で地域福祉ネットワーク会議が開催され、地域での交流について検討されました。	地域アセスメントなどをふまえ、地域の状況に応じた交流のあり方を考えていく必要があります。	B：概ね計画通り取り組めた
				多文化共生課	外国人防災リーダーなどを活用し地域との交流の機会を促進します。	b：取組実績把握	—	—	—	地域支援者の方を対象に実施した「やさしい日本語講座」に、外国人防災リーダーもスタッフとして参加しました。 （災害ボランティアセンターとの協働事業） 開催日：2月16日（日）場所：上野東部地区市民センター	特に災害時において地域での連携が重要なため、引き続き交流の促進を支援していく必要があります。	B：概ね計画通り取り組めた

伊賀市多文化共生推進プラン（第1期）進捗管理シート

展開 方	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2026(R6)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2024(R6)年度 各主体の取組実績	② 2024(R6)年度 課題・改善案	④ 2024(R6)年度 取組に対する評価
						タイプ※	指標名	見込値 (2024)	③ 実 績値			
4	外国人住民も活躍する地域づくり 4-A-(1) 日本語学習機 会の拡充	①日本語学習の機 会づくり	◆地域や企業における交流機会を 活かした日本語学習の機会づくり	多文化共生課	地域や企業について日本語学習の実態把握を行います。 また、地域の日本語教育コーディネーターなどを活用し 日本語学習の機会づくりを検討します。	b: 取組 実績把握	—	—	—	日本語ボランティア入門講座を実施しました。（受講 者：9名）	受講者のうち数名が市の委託事業のボランティアスタッ プに登録されました。ボランティアスタッフは依然と して不足しているため継続した取組が必要です。	B: 概ね計画通り取 り組めた
				生涯学習課	地域の活動に活かせるよう、担当課から情報提供をして もらいます。	d: 把握 困難	—	—	—	やさしい日本語講座を実施した地域や、地域に住む外国 籍の方を講師に招き、教室を開催しました。交流をきっ かけに文化を知る機会となりました。	地域の活動に活かせるよう、担当課から情報提供をして もらっています。今後は、年に2回各地区へ活動の照会 を行うなどして取組状況の把握に努めます。	B: 概ね計画通り取 り組めた
				エクセディ	技能実習生への日本語オンライン講座の開催	b: 取組 実績把握	—	—	—	・2024/4～6、10、11月にて 日本語オンライン講習を計11回実施済	継続的に実施します。	B: 概ね計画通り取 り組めた
		② 協働による日本 語教室の開設	◆日本語教室の拡充	多文化共生課	日本語教室の取組拡充について、庁内及び関係機関と検 討を行います。	b: 取組 実績把握	—	—	—	住民自治協議会に対しヒアリング調査を行い、地域の実 情把握を行いました。その際には、日本人住民に対して 「伊賀市でくらす外国人のための生活ガイドブック」を 周知し様々な情報提供とともに活用方法を周知しまし た。	今後も、地域の日本語教育の体制づくりについて、地域 日本語教育コーディネーターなどを活用し、それぞれの 地域に合った取組の検討が必要です。	B: 概ね計画通り取 り組めた
				生涯学習課	地域の活動に活かせるよう、担当課から情報提供をして もらいます。	d: 把握 困難	—	—	—	やさしい日本語講座を実施した地域や、地域に住む外国 籍の方を講師に招き、教室を開催しました。交流をきっ かけに文化を知る機会となりました。	地域の活動に活かせるよう、担当課から情報提供をして もらっています。今後は、年に2回各地区へ活動の照会 を行うなどして取組状況の把握に努めます。	B: 概ね計画通り取 り組めた
				伊賀の伝丸	企業や介護施設への日本語講座の提供（講師派遣）	c: その 他	—	—	—	伊賀日本語の会の事務局を代行（開講の問合せや、申し 込み受けなど）しました。	2024年12月までで事務局代りは終了しました。	B: 概ね計画通り取 り組めた
		◆地域、企業等における日本語教 育活動コーディネート	多文化共生課	日本語教室やweb教材などを紹介し、日本語教育の活動 支援を行います。	b: 取組 実績把握	—	—	—	住民自治協議会に対しヒアリング調査を行い、地域の実 情把握を行いました。その際には、日本人住民に対して 「伊賀市でくらす外国人のための生活ガイドブック」を 周知し様々な情報提供とともに活用方法を周知しまし た。	今後も、地域の日本語教育の体制づくりについて、地域 日本語教育コーディネーターなどを活用し、それぞれの 地域に合った取組の検討が必要です。	B: 概ね計画通り取 り組めた	
			商工労働課	多文化共生センターや通訳兼相談員などと連携しながら 就労相談などを行います。 また、人権啓発企業訪問の際に外国人雇用があるか確認 の上、言葉や文化に対する取り組みを行っているか実態 把握し、取り組みがないなら取り組むよう検討を促しま す。	b: 取組 実績把握	—	—	—	人権啓発企業訪問において、227の企業・事業所を訪問 し、言葉や文化に対する取り組みについて聞き取りを行 いました。取り組み未実施の企業・事業所には、今後の 検討を依頼しました。	人権啓発企業訪問において、業務多忙等の理由で訪問 を辞退する企業・事業所がいくつかありました。こうした 企業・事業所へは書類を郵送する形での啓発としまし た。	B: 概ね計画通り取 り組めた	
			多文化共生課	◆地域、企業等における日本語教 育の実情把握	人権学習企業連絡会などを通じ、日本語教育の実情把握 を行います。	b: 取組 実績把握	—	—	—	企業・事業所訪問人権啓発事業において、外国人従業員 に対する日本語教育や研修の有無についてアンケートを 実施しました。 地域については、ヒアリング調査で実情把握を行いまし た。	企業や地域の実情に合った取組を一緒に検討していく必 要があります。	B: 概ね計画通り取 り組めた
		◆地域、企業等における日本語教 育の実情把握	商工労働課	人権啓発企業訪問及び伊賀市人権学習企業等連絡会加入 事業者への啓発の際に、外国人雇用があるか確認の上、 言葉や文化に対する取り組みを行っているか実態把握 し、取り組みがないなら取り組むよう検討を促します。	b: 取組 実績把握	—	—	—	人権啓発企業訪問において、227の企業・事業所を訪問 し、言葉や文化に対する取り組みについて聞き取りを行 いました。取り組み未実施の企業・事業所には、今後の 検討を依頼しました。	人権啓発企業訪問において、業務多忙等の理由で訪問 を辞退する企業・事業所がいくつかありました。こうした 企業・事業所へは書類を郵送する形での啓発としまし た。	B: 概ね計画通り取 り組めた	
			生涯学習課	地域における日本語学習の実情把握に努めます。	d: 把握 困難	—	—	—	「多文化共生」をテーマに、ハイトピア人権学習会 (2/12)を開催 「日本国内における外国人問題」をテーマに、あやま 人権・同和問題学習講座(2/28)を開催	市民が人権問題を身近に、まず自分の意識を考える機会 となることを目指し、継続していくことが大切だと考え ます。	B: 概ね計画通り取 り組めた	
			多文化共生課	◆長期休暇期間中における学習支 援教室の開催	長期休暇期間中に外国につながるこどもの学習支援の一 環としてセミナーを開催します。	a: 数値 把握	外国につながるの あるこどものためのセ ミナー実施	2回	2回	外国につながるこどものための夏季セミナー(8/6・ 8/7) 冬季セミナー(12/26)を実施しました。	学生ボランティアから勉強を教わったり、伊賀市の文化 を学んだりとても有意義なセミナーとなりました。今後 も事業を継続し、セミナーで学んでいるこどもたちが、 将来スタッフとして活躍してくれることを期待してい ます。	B: 概ね計画通り取 り組めた
		◆長期休暇期間中における学習支 援教室の開催	生涯学習課	(再掲)小学生を対象として、放課後や長期休暇中の活 動拠点(居場所)を提供します。	a: 数値 把握	放課後子ども教室開設 教	5か所	5か所	小学生を対象として、安心・安全なこどもの活動拠点(居場 所)を設け、地域の方々の参画を得て、こどもたちと共に勉 強やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の取 り組みを推進できました。	定期的な活動を実施しました。また、令和7年度に1教室が 新設される予定のため準備を行っています。	B: 概ね計画通り取 り組めた	
			国際交流協会	漢字学習支援教室の開催	a: 数値 把握	開催日数	40回/年	40回	・漢字学習支援教室を毎月曜日(15:30～16:30)、年40 回開催、休暇中も継続しました。(登録児童数15人) ・七夕行事やひな祭りの説明等、日本文化に触れる機会 を設けました。 ・夏休み俳句教室を開催しました。(参加者6人)	・長期休暇中は開催時間が違うため、保護者の都合によ り教室への送迎ができない場合があります。	B: 概ね計画通り取 り組めた	

展開方	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2026(R6)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2024(R6)年度 各主体の取組実績	② 2024(R6)年度 課題・改善案	④ 2024(R6)年度 取組に対する評価
						タイプ※	指標名	見込値 (2024)	③ 実績値			
			◆学習支援に携わる人材等の育成	学校教育課	各校に日本語指導コーディネーターを派遣し、日本語指導担当者に対する指導や日本語能力測定方法等の研修などを実施するとともに、外国人児童生徒教育の担当者を対象に研修を実施します。	b：取組 実績把握	-	-	-	外国人児童生徒教育コーディネーターである船見和秀先生を小中学校へ派遣し、日本語指導担当者に対する指導や日本語能力測定方法等の研修、個別の測定のサポートを行い、受入体制の整備につなげました。また、船見先生を講師として、市内全小中学校の外国人児童生徒教育（日本語指導教育）の担当者を対象に日本語指導者研修会を行いました。 (1) 第1回研修会（5月27日） ・講義「日本語指導の基礎～社会の状況の変化をふまえて～」 (2) 第2回研修会（7月29日） ・講義「キャリア教育を見据えた日本語指導とは～やさしい日本語の視点～」 ・ワークショップ	外国人児童生徒教育コーディネーターを派遣することにより、小中学校の指導体制や日本語指導等の課題に応えることができました。また、児童生徒の日本語能力に合わせて、適切な教材の紹介やその活用等、必要な情報を提供することができました。 研修会では、「やさしい日本語」で話すポイントとしての「ハサミの法則」や、児童生徒の多様な背景をつかみ、長期的な将来ビジョンを把握しうえでの取り組みや、進路指導に関する情報提供を早期から進めていくことの重要性を学ぶことができました。	B：概ね計画通り取り組めた
			伊賀の伝丸	ささゆり教室ボランティア先生研修の実施	a：数値 把握	参加人数	15人	延23人	新しいボランティア先生を積極的に募集し、個々にボランティア先生入門講座を実施しました。俳句について研修を兼ね「せんせいの句会」の俳句練習に参加してもらいました。3月には「発達特性を持つ子どもたちへの実践」についてオンライン研修を実施しました。	交流を兼ねて有意義でした。	A：計画以上に取り組めた	
			国際交流協会	ボランティアスタッフの募集と研修会の実施	a：数値 把握	ボランティアスタッフの募集と研修	10人	10人	・ボランティアスタッフの募集を行いました。 ・漢字学習支援教室のボランティアスタッフ研修会に「NPO法人にわりの会」より講師を招いて実施しました。（参加者10人）	・ボランティアスタッフは、増加しているが欠席が重なる場合も多く、更なる募集が必要です。	B：概ね計画通り取り組めた	
			学校教育課	初めて日本の学校へ通うことになった外国人児童生徒で、日本語が全く話せない、ほとんど理解できない場合、伊賀市における外国人児童生徒教育の拠点校の1つである上野東小学校内に設置した初期適応指導教室において、集中的に日本語指導や学校への適応指導を行います。	c：その他	-	-	-	初期適応指導教室の運営により、児童生徒への初期日本語指導や学校への適応指導に一定の成果をあげています。今年度は、ブラジル人3名（小学生2名、中学生1名）、メキシコ人1名（小学生）、フィリピン人4名（小学生3名、中学生1名）、中国人4名（小学生）、ベトナム人4名（小学生2名、中学生2名）が入室し、個々の日本語能力等に応じて学習を行いました。	外国籍児童生徒の増加傾向から、今年度は年間を通じて定員上限の6名に達する状況となることも多く、緊急措置的に指導者3人体制で対応することもありました。今後、同様の状況が発生することも十分考えられることから、初期適応指導における指導者の確保が必要です。また、初期適応指導教室へ通うためには保護者の送迎が必要のため、通うことができないケースもありました。学校での日本語教育を行うためには、ボランティアスタッフの募集・活用方法に課題があります。	B：概ね計画通り取り組めた	
4-A-(2) 双方向による情報発信	① 有効なツールの活用による情報の多言語発信	◆行政情報の多言語化	さくらリサイクルセンター	外国語版ごみ分別アプリの利用促進	a：数値 把握	ダウンロード数	500ダウンロード	348	スマートフォンやタブレットからごみ分別方法や収集カレンダーを確認できるよう、2023(R5)年3月から、外国語版ごみ分別アプリを導入しています。 アプリは、英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、ベトナム語に対応。 やさしい日本語を用いて外国語版での広報を実施しました。	居住地区のごみ収集日、分別区分や出し方などをスマートフォンやタブレットから簡単に確認することができるため、今後も普及啓発を図ります。	B：概ね計画通り取り組めた	
		多文化共生課	多言語情報紙の発行や庁内各課からの依頼により情報の多言語化を行います。また、多言語情報の活用について周知を行います。	a：数値 把握	多言語情報紙の発行	12回	12回	広報「いが」の中から外国人住民が特に必要な情報を抜粋し、より活用してもらえる多言語情報紙を意識し多言語相談員が協議しながら改善に取り組みました。 庁内各課や自治会からの依頼を受けて、文書の翻訳や多言語情報紙に情報を掲載しました。	今後も、多言語情報紙については、より活用してもらえる情報紙を意識し改善する必要があります。 また、庁内各課や自治会からの翻訳依頼についても、依頼を受け翻訳するだけでなく、必要性を考慮し、よりよい情報発信の方法を協議しながら進めていくことが必要です。	A：計画以上に取り組めた		
		◆SNS等の活用	多文化共生課	多文化共生センターホームページ、フェイスブックを活用し、積極的な情報発信に努めます。	a：数値 把握	フェイスブックでの発信	48回	75回	多文化共生センターFacebookで多言語による情報発信を行いました。	SNSを活用することでより多くの外国人住民に情報提供をすることが出来ています。	B：概ね計画通り取り組めた	
		◆外国語版情報紙のPRと活用	国際交流協会	外国語版情報紙の発行と配布。外国語版情報紙の配布先拡大	b：取組 実績把握	多言語情報紙発行回数／発行部数	12回／ 36,000部	12回／ 36,660部	・5言語（ポルトガル語、スペイン語、中国語、英語、ベトナム語）とやさしい日本語の多言語情報紙を月1回発行。関係機関、団体、企業、自治会等へ配布しました。 ・配布先を精査し、希望先へは電子版へ移行しました。 ・配布できない方への対策としてホームページに掲載しPRを行いました。	・多言語情報紙の電子版を推進します。	B：概ね計画通り取り組めた	
		② 情報を「つなぐ」機能と体制の構築	◆外国人サポーターなどの人材発掘と活動のマッチング	多文化共生課	多文化共生相談員や各種団体等と協力し、人材発掘を行います。	b：取組 実績把握	-	-	-	外部からの問い合わせに対し、多文化共生相談員や各種団体と協力して、外国人住民とのマッチングを行いました。	住民自治協議会のヒアリング調査の中で、地域で活躍している外国人住民の情報を聞かせてもらうことができました。今後の活動の中で、活躍してもらえる人材として、繋げていければと考えています。	B：概ね計画通り取り組めた

展開方	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2026(R6)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2024(R6)年度 各主体の取組実績	② 2024(R6)年度 課題・改善案	④ 2024(R6)年度 取組に対する評価			
						タイプ※	指標名	見込値 (2024)	③ 実績 値						
				商工労働課	人権啓発企業訪問及び伊賀市人権学習企業等連絡会加入事業者への啓発の際に、外国人に関係する資料を社員も含めて広く閲覧できる環境下（食堂や休憩室など社員が共用しているスペースなど）に置いてもらえるよう依頼します。	b：取組 実績把握	—	—	—	人権啓発企業訪問（伊賀市人権学習企業等連絡会加入事業者を含む）において227の企業・事業所に対して訪問等による啓発を実施し、外国人の雇用に関する資料を共有の場に設置いただくよう依頼しました。	業務多忙等の理由で訪問を辞退する企業・事業所がいくつかありました。こうした企業・事業所へは書類を郵送する形での啓発としました。	B：概ね計画通り取り組めた			
				◆企業従業員等への情報提供の充実	多文化共生課	市内の企業等と連携し、多言語対応の情報活用について企業訪問等で啓発を行います。	b：取組 実績把握	—	—	—	例年どおり企業・事業所訪問人権啓発事業において多文化共生課相談窓口や多言語情報紙の周知を行いました。また、全39地区の住民自治協議会に対しても様々な周知活動を行いました。	企業・事業所から多言語情報紙について問い合わせがあり、新たな事業所で多言語情報紙を配布してもらえることになりました。 伊賀市でくらす外国人のための生活ガイドブックの活用も周知していく必要があります。	A：計画以上に取組めた		
				商工労働課	人権啓発企業訪問及び伊賀市人権学習企業等連絡会加入事業者への啓発の際に、外国人に関する資料を社員も含めて広く閲覧できる環境下（食堂や休憩室など社員が共用しているスペースなど）に置いてもらえるよう依頼します。	b：取組 実績把握	—	—	—	人権啓発企業訪問（伊賀市人権学習企業等連絡会加入事業者を含む）において227の企業・事業所に対して訪問等による啓発を実施し、外国人の雇用に関する資料を共有の場に設置いただくよう依頼しました。	業務多忙等の理由で訪問を辞退する企業・事業所がいくつかありました。こうした企業・事業所へは書類を郵送する形での啓発としました。	B：概ね計画通り取り組めた			
				エクセディ	情報誌（やさしい日本語情報誌「伊賀」等）の設置、通訳の配置、通訳による生活情報の提供と生活面の相談	b：取組 実績把握	—	—	—	・各言語の通訳配置し、日々生活面での困り事などの相談を実施	継続的に実施します。	B：概ね計画通り取り組めた			
				上野商工会議所	外国人を雇用している会員企業に情報発信を行う。	b：取組 実績把握	—	—	—	上野商工会議所ニュースの発行（毎月）1500事業所 事業支援金等のお知らせ	特になし	B：概ね計画通り取り組めた			
				伊賀市商工会	外国人を雇用している会員企業に情報発信を行う。	b：取組 実績把握	—	—	—	会員一斉訪問にて対象企業に情報発信を行っています。	対応できる職員がほほいないため、AIなどの習得により対応を考えていきたい。	C：あまり計画通りに取り組めなかった			
				◆企業等における「まとも役」を通じた情報伝達のしくみづくり	商工労働課	人権啓発企業訪問及び伊賀市人権学習企業等連絡会加入事業者への啓発を通じて、外国人を含めた情報伝達体制を確認します。	b：取組 実績把握	—	—	—	人権啓発企業訪問（伊賀市人権学習企業等連絡会加入事業者を含む）において外国人の雇用等に関する啓発を行いました。 3月末までに227の企業・事業所に対して訪問等による啓発を実施します。	業務多忙等の理由で訪問を辞退する企業・事業所がいくつかありました。こうした企業・事業所へは書類を郵送する形での啓発としました。	B：概ね計画通り取り組めた		
				4-A-(3) 外国人への偏見・差別の解消	① 啓発活動の充実	◆すべての人への意識啓発	人権政策課	人権講演会や人権問題地区別懇談会、人権パネル展における周知・啓発を行います。	a：数値 把握	周知回数	5回	8回	地域での人権問題講演会、外国人の人権問題について啓発しました。（1回）また、外国人への偏見や差別をなくすために人権パネル（5枚セット）をボード等に掲示し啓発しました。（7回）	偏見や差別が生じないように理解を深めていただく啓発手法の検討が必要です。	A：計画以上に取組めた
							多文化共生課	多文化共生理解事業（伊賀市国際交流フェスタなど）を関係関係団体と協力実施し、すべての人に対し意識啓発を行います。	b：取組 実績把握	—	—	—	国際交流協会に事業委託し、多文化共生理解事業（伊賀市国際交流フェスタなど）を関係関係団体と協力実施し、すべての人に対し意識啓発を行いました。	今後もすべての人への意識啓発のため、外国人住民と日本人住民が交流できるイベントや出前講座など、様々な多文化交流の場を提供していきます。	B：概ね計画通り取り組めた
							商工労働課	人権啓発企業訪問及び伊賀市人権学習企業等連絡会加入事業者への啓発の際に、外国人差別だけでなく、社内でのすべての差別事象の発生有無を確認するとともに、発生した場合はその概要や対応など、再発防止策も含めて聞き取りを行います。 また、外国人に関する資料を社員も含めて広く閲覧できる環境下（食堂や休憩室など社員が共用しているスペースなど）に置いてもらえるよう依頼します。	b：取組 実績把握	—	—	—	人権啓発企業訪問（伊賀市人権学習企業等連絡会加入事業者を含む）において227の企業・事業所に対して訪問等による啓発を実施し、外国人の雇用を含めた人権啓発を行うとともに、外国人の雇用に関する資料を共有の場に設置いただくよう依頼しました。	業務多忙等の理由で訪問を辞退する企業・事業所がいくつかありました。こうした企業・事業所へは書類を郵送する形での啓発としました。	B：概ね計画通り取り組めた
			生涯学習課	市民が人権に関する基本的な知識や考え方を習得できるように、効果的な学習機会の充実に努めます。	d：把握 困難	—	—	—	「多文化共生」をテーマに、ハイチ人権学習会（2/12）を開催 「日本国内における外国人問題」をテーマに、あやま人権・同問題学習講座（2/28）を開催	市民が人権問題を身近に、まず自分の意識を考える機会となることを目指し、継続していくことが大切と考えます。	B：概ね計画通り取り組めた				
			エクセディ	社内の人権方針の確実な実行 企業倫理（行動規範）への反映・周知	b：取組 実績把握	—	—	—	・行動規範の読合せ（2回/年）…人権方針含む ・行動規範の理解度テスト（1回/年） 2025/2/21実施 ・人権教育（1回/年） 2024/9/30実施	継続的に実施します。	B：概ね計画通り取り組めた				
			伊賀の伝丸	人権講演への講師派遣	a：数値 把握	参加者数	500人	約600人	小学校やPTA、高校、県市、地域団体などで多文化共生や人権、支援に関する講演、講師派遣を行いました。	特になし	B：概ね計画通り取り組めた				
			② 交流機会の創出	◆多文化理解のための交流機会の創出	スポーツ振興課	多文化共生課と連携し、外国語情報誌等にイベント情報を掲載します。外国人住民の方にも情報収集してもらいやすい環境をつくりイベントへの交流機会に繋がります。	b：取組 実績把握	情報誌等への掲載	3	2	多文化共生課と連携し、外国語情報誌等にイベント情報を掲載できました。	情報誌のスペースに限りがあり、スポーツイベントの周知は優先順位が低くなるため、掲載したい月に情報提供ができないことがあります。多文化共生課と連携し、チラシ作成等計画していきたいと思います。	B：概ね計画通り取り組めた		

展開方	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2026(R6)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2024(R6)年度 各主体の取組実績	② 2024(R6)年度 課題・改善案	④ 2024(R6)年度 取組に対する評価
						タイプ※	指標名	見込値 (2024)	③ 実 績値			
				多文化共生課	(再掲) 多文化共生理解事業や国際交流フェスタなどを通して多文化交流の機会を充実します。	a：数値 把握	(再掲) 多文化共生理解イベントの実施	3回	4回	・10月6日(日)JAいがふるさと「ひぞっこ」で「国際交流フェスタ」を開催、各国の文化や日本の文化の紹介等を行い、約1,500人の入場者がありました。また、在住外国人の実行委員を募集行うも1名にとどまりました。 ・青山ハーモニーフォレストとの共催で世界の料理教室を3回(ベトナム料理、中国料理、ペルー料理)開催、延べ51人が参加しました。	・外国人のフェスタ実行委員会委員は当該年度は1名でした。次年度は2〜3名増員したいと考えています。 ・料理教室は好評で毎回参加者が多いので今後も継続して実施します。	B：概ね計画通り取り組めた
				生涯学習課	市民が人権に関する基本的な知識や考え方を習得できるように、効果的な学習機会の充実に努めます。	d：把握 困難	—	—	—	「多文化共生」をテーマに、ハイトピア人権学習会(2/12)を開催 「日本国内における外国人問題」をテーマに、あやま人権・同和問題学習講座(2/28)を開催	・市民が人権問題を身近に、まず自分の意識を考える機会となることを目指し、継続していくことが大切だと考えます。	B：概ね計画通り取り組めた
				国際交流協会	国際交流フェスタ開催と実行委員会等への在住外国人の参加促進 在住外国人が日本文化に触れるイベントの開催 外国文化習慣等の紹介講座と料理教室の開催	b：取組 実績把握	—	—	—	・10月6日、JAいがふるさと「ひぞっこ」で「国際交流フェスタ」を開催、各国や日本の文化の紹介等を行いました。 ・青山ハーモニーフォレストとの共催で世界の料理教室を3回(ベトナム料理、中国料理、ペルー料理)開催、延べ51人が参加しました。 ・市民夏のにぎわいフェスタに出展し、多文化共生等のPR活動を行いました。 ・JICA三重デスクとともに上野西小学校の5年生を対象に多文化共生授業の一環として出前講座に出向きました。 ・世界とつながる写真展「マンマン編」を多文化共生センター等で行いました。 ・「伊賀市のここが好き」をテーマにフォトコンテストを開催。35点の応募があり、優秀作品の表彰式を国際交流フェスタで行うとともに作品展示をハイトピア伊賀5階及び西栢権地区市民センターで行いました。 ・漢字学習支援教室で学習する外国につながる児童を対象に、日本文化や風習、俳句を学ぶ機会を設けました。 ・伊賀FCくノ一主催 JICA&当協会共催による「親子サッカー教室」を開催しました。(外国人家族11、日本人家族5 総数42名参加) ・三重県上野森林公園主催、JICA&当協会共催による「親子たき火イベント」を開催しました。(外国人家族、日本人家族合わせて32名参加)	・外国人の国際交流フェスタ実行委員は、当該年度は1名でした。次年度は2〜3名にしたい。 ・料理教室や親子イベントは好評で毎回参加者が多く、今後も継続し実施します。 ・多文化理解の事業を継続し実施します。 ・にぎわいフェスタ等に出席する外国人の方への申請手続き等を今後も支援します。	B：概ね計画通り取り組めた
4-B-(1) 住民の声を聴くための機会づくり	① 外国人住民からの広聴機会の確保	-		秘書広報課	お問い合わせフォームやeモニター登録者を通じて、外国籍住民からの意見を聞きます。 eモニターの属性は国籍を把握していないので、実績として人数や意見数を把握することは難しいです。多文化共生の意見は日本人からも外国人からも寄せられることが望ましく、引き続き市民からの意見募集やeモニター制度を活用していきます。	b：取組 実績把握	—	その他	—	お問い合わせフォームなどを通じて市民の意見を聞くほか、eモニター制度を使って市政に対する意見を聞いています。	お問い合わせフォームやeモニター登録者を通じて、外国籍住民からの意見を聞いていきます。 eモニターの属性は国籍を把握していないので、実績として人数や意見数を把握することは難しいです。多文化共生の意見は日本人からも外国人からも寄せられることが望ましく、引き続き市民からの意見募集やeモニター制度を活用していきます。	B：概ね計画通り取り組めた
				多文化共生課	外国人住民を含む多文化共生推進プラン委員会や外国人住民アンケートを実施し、当事者の意見を聴く機会を設けます。	a：数値 把握	委員会等の開催	3回	2回	外国人住民アンケートを実施しました。 多文化共生推進プラン委員会の公募委員として新たに4名の方からプラン委員会で意見をいただきました。	今後も、様々な方法で当事者の意見を聴く機会を設けていきます。	B：概ね計画通り取り組めた
4-C-(1) まちづくり、地域づくりへの参画	① 市政への参画機会の確保	-		多文化共生課	外国人住民が安心して暮らすことができるよう各種委員会等へ外国人住民の参画を進めます。	a：数値 把握	外国人住民の審議会委員数	7人	9人	多文化共生推進プラン委員以外にも、総合計画審議会男女共同参画審議会・子ども・子育て会議において外国人住民の委員登用がされています。	今後も各種委員会等への外国人住民の参画を進め、外国につながる人々の意見をまちづくりに反映していく必要があります。	B：概ね計画通り取り組めた
	② 地域活動への参画促進	-										
4-C-(2) 外国人住民の人材育成と支援者の人材育成	① 意欲ある外国人住民の発掘と育成	-		多文化共生課	(再掲) 多文化共生理解事業や国際交流フェスタなどを通して多文化交流の機会を充実させます。	a：数値 把握	(再掲) 多文化共生理解イベントの実施	3回	4回	・10月6日(日)JAいがふるさと「ひぞっこ」で「国際交流フェスタ」を開催、各国の文化や日本の文化の紹介等を行い、約1,500人の入場者がありました。 ・青山ハーモニーフォレストとの共催で世界の料理教室を3回(ベトナム料理、中国料理、ペルー料理)開催、延べ51人が参加しました。	料理教室は好評で毎回参加者が多いので今後も継続して実施します。	B：概ね計画通り取り組めた
	② 外国人住民を支援する人材の育成	-		多文化共生課	(再掲) 多文化共生理解事業や国際交流フェスタなどを通して多文化交流の機会を充実させます。	a：数値 把握	(再掲) 多文化共生理解イベントの実施	3回	4回	・10月6日(日)JAいがふるさと「ひぞっこ」で「国際交流フェスタ」を開催、各国の文化や日本の文化の紹介等を行い、約1,500人の入場者がありました。 ・青山ハーモニーフォレストとの共催で世界の料理教室を3回(ベトナム料理、中国料理、ペルー料理)開催、延べ51人が参加しました。	料理教室は好評で毎回参加者が多いので今後も継続して実施します。	B：概ね計画通り取り組めた
4-C-(3) 外国人起業家などへの支援	① 外国人起業家への支援	-		多文化共生課	起業家支援対策において、他課と連携し多言語で支援を行います。(通訳・翻訳業務)	b：取組 実績把握	—	—	—	起業家の相談を受けた際、関係機関に問い合わせるなどの支援を行いました。	関係機関との連携を円滑にし、起業家支援に関する情報を外国人住民にも提供します。	B：概ね計画通り取り組めた

展 開 方	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2026(R6)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2024(R6)年度 各主体の取組実績	② 2024(R6)年度 課題・改善案	④ 2024(R6)年度 取組に対する評価	
						タイプ※	指標名	見込値 (2024)	③ 実 績値				
				商工労働課	地元の商工団体やゆめテクノ伊賀のインキュベーションマネージャー等と連携し、起業を検討している方に対するサポートを行います。	c：その他	起業・経営革新促進事業補助金の採択数（外国人だけでなく日本人も含めた総数）	18件	19件	起業支援に関する情報を上野商工会議所、伊賀市商工会、ゆめテクノ伊賀等と適時共有し、支援体制を強化しました。 関係者と連携した補助金の相談対応、申請支援等を行うことにより、令和6年度起業・経営革新促進事業補助金として19件を採択しました。（本年度は外国人申請なし）	補助金の申請において関係機関へ事前相談があったにも関わらず、申請書類でいくつか不備があったため、来年度の実施にあたっては関係機関への周知を徹底するとともに、運営方法等の改善を図ります。	B：概ね計画通り取り組めた	
				上野商工会議所	確定申告、国・県・市の支援金、給付金、補助金等についての説明指導（上野商工会議所）	d：把握困難				外国人事業者の確定申告、国・県・市の補助事業の申請支援	通訳の方が同行されたり、日本語の分かる方が来所されています。	B：概ね計画通り取り組めた	
				伊賀市商工会	確定申告、国・県・市の支援金、給付金、補助金等についての説明指導（上野商工会議所）	d：把握困難				確定申告、国・県・市の支援金、給付金、補助金等について説明指導を行いました。	多言語に対応できる職員がおらず、対応がほとんどできていません。	C：あまり計画通りに取り組めなかった	
	② イベント等への支援				スポーツ振興課	職員が「やさしい日本語」の研修会に参加し、少しでも多くのイベント開催時に誰もが見やすい案内やチラシ作成ができるようになります。	b：取組実績把握	やさしい日本語研修	1	1	伊賀地区駅伝大会の交通規制のチラシをやさしい日本語版で作成し配布しました。	業務多忙のため、積極的に研修会に参加することができませんでした。今後は担当課と連携を取りながら、チラシの作成等に努めていきたいと思います。	C：あまり計画通りに取り組めなかった
					多文化共生課	イベント等の企画や通訳・翻訳業務を支援します。	b：取組実績把握	—	—	—	イベント企画の相談を受けた際、関係機関に問い合わせなどの支援を行いました。	関係機関との連携を円滑にし、外国人住民が主体となったイベントの企画を支援します。	B：概ね計画通り取り組めた

■伊賀市多文化共生推進プラン 第1期（2023-2026） 成果指標実績表

展開方向1 だれもが安全に安心して暮らせる地域づくり

		2022		2023	2024	2025	2026
指 標	伊賀市に住んでとてもよかったと感じている外国人の割合	現状値 39%	目標値	41%	43%	44%	目標値 45%
			実績値	41%	37%		
			達成率	100%	86%		
指 標	外国人防災リーダー研修受講者 累計人数	現状値 14人	目標値	30人	35人	35人	目標値 35人
			実績値	31人	39人		
			達成率	103%	111%		

展開方向2 教育・子育てしやすい地域づくり

		2022		2023	2024	2025	2026
指 標	とても子育てしやすいと感じる人の割合	現状値 39%	目標値	43%	47%	51%	目標値
			実績値	41%	33%		55%
			達成率	95%	70%		
指 標	高等学校への進学率	参考値 95% (2021)	目標値	97%	98%	99%	目標値
			実績値	100%	100%		100%
			達成率	103%	102%		

※2022 高等学校への進学率(37/38) 97.36%

展開方向3 国籍を越えた交流による地域づくり

		2022		2023	2024	2025	2026
指 標	日本人との交流がある外国人の割合	現状値 44%	目標値	46%	47%	48%	目標値
			実績値	40%	44%		50%
			達成率	87%	94%		
指 標	「やさしい日本語」の研修受講者 累計人数	現状値 35人	目標値	75人	115人	155人	目標値
			実績値	192人	299人		180人
			達成率	256%	260%		

展開方向4 外国人住民も活躍する地域づくり

		2022		2023	2024	2025	2026
指 標	外国人住民の審議会等委員 延べ人数	現状値 5人	目標値	6	7	8	目標値
			実績値	8	9		8人
			達成率	133%	129%		
指 標	差別を受けたことがある人の割合	現状値 21%	目標値	15%	10%	5%	目標値
			実績値	18%	34%		0%
			達成率	83%	29%		